



Docket No. 14356Z

UNITED STATES PATENT AND TRADEMARK OFFICE

VERIFICATION OF A TRANSLATION

I, Susan ANTHONY BA, ACIS,
Director of RWS Group plc, of Europa House, Marsham Way, Gerrards Cross,
Buckinghamshire, England hereby declare that:

My name and post office address are as stated below;

That the translator responsible for the attached translation is knowledgeable in the English language and in the Japanese language, and that, to the best of RWS Group plc knowledge and belief, the English translation of the marked portion of the attached Japanese document is true and complete.

I hereby declare that all statements made herein of my own knowledge are true and that all statements made on information and belief are believed to be true; and further that these statements were made with the knowledge that willful false statements and the like so made are punishable by fine or imprisonment, or both, under Section 1001 of Title 18 of the United States Code and that such willful false statements may jeopardize the validity of the application or any patent issued thereon.

Date: April 5, 2004

Signature :

For and on behalf of RWS Group plc

Post Office Address :

Europa House, Marsham Way,
Gerrards Cross, Buckinghamshire,
England.

1. In the points noted below, the application does not comply with the requirements set forth in Article 37 of the Patent Act.

NOTES

0 The inventions pertaining to Claims 2 to 29 do not comply with the requirements set forth in Article 37 of the Patent Act with respect to the invention pertaining to Claim 1.

By virtue of the fact that the invention pertaining to Claim 1 constitutes a technique that was disclosed prior to the submission of the present application (by way of example, see cited document 1 noted below), there are no new problems resolved by the invention and no key elements in its configuration that constitute matters that cannot be replaced.

By virtue of the fact that this application breaches the provisions set forth in Article 37 of the Patent Act, no examination of the novelty and inventiveness of the inventions pertaining to Claims other than Claims 1 to 5 was conducted.

2. The inventions pertaining to the claims of the application noted below cannot be granted patent rights

in accordance with the provisions set forth in Article 29, Paragraph 2 of the Patent Act because, based on the inventions disclosed in the publications noted below which have been circulated within and outside Japan prior to the submission of the application, they could have been easily invented prior to the submission of the application by a person having knowledge common to the field of technology to which the inventions belong.

NOTES (Regarding cited documents etc., see the Reference
List of Cited Documents etc.)

0 Claims: 1 to 5/Cited Document 1

- Cited document 1: See, in particular, the claims.
- The annexed configuration of the invention pertaining to Claims 4 and 5 constitutes nothing more than a matter of design able to be performed, as appropriate, by a person skilled in the art.

3. In the points noted below, the specification and description of the diagrams of this application do not satisfy the requirements set forth in Article 36, Paragraph 4 and Paragraph 6 Item No. 2 of the Patent Act.

NOTES

- Due to the fact that, in the invention pertaining to Claim 6, the annexed verb to the mirror is unclear and, in addition, the manner in which the displacement force is imparted is unclear, the details of the invention are ambiguous.

- The method of implementation describes only a part of the inventions pertaining to Claims 7, 8 and 21 wherein the inventions of the other sections of the invention pertaining to Claims 7 and 8 cannot be implemented.

The same applies to the claims that cite Claims 7, 8 and 21.

- Although the invention pertaining to Claim 9 encompasses an invention in which the mirror is configured from just a single layer thin film, the method used to actualize the whole of the configuration of Claim 8 using just a one layer mirror is unclear.

- The import of the configuration described in Claim 19 is unclear.

List of Cited Documents etc.

1. Japanese Unexamined Patent Application No. Showa 64-017015

拒絶理由通知書

特許出願の番号	特願2001-390467
起案日	平成16年 4月 5日
特許庁審査官	樞本 英吾 9609 2X00
特許出願人代理人	工藤 実 様
適用条文	第29条第2項、第36条、第37条

この出願は、次の理由によって拒絶をすべきものである。これについて意見があれば、この通知書の発送の日から60日以内に意見書を提出して下さい。

理 由

1. この出願は、下記の点で特許法第37条に規定する要件を満たしていない。

記

○請求項2-29に係る発明は、請求項1に係る発明に対して、特許法第37条各号に規定する関係を満たしていない。

請求項1に係る発明は、本願の出願前公知の技術であるから（例えば下記の引用文献1参照）、解決しようとする新規の課題はなく、また構成に欠くことのできない事項の主要部も存在しない。

この出願は特許法第37条の規定に違反しているので、請求項1-5以外の請求項に係る発明については新規性、進歩性等の要件についての審査を行っていない。

2. この出願の下記の請求項に係る発明は、その出願前日本国内又は外国において頒布された下記の刊行物に記載された発明に基いて、その出願前にその発明の属する技術の分野における通常の知識を有する者が容易に発明をすることができたものであるから、特許法第29条第2項の規定により特許を受けることができない。

記 (引用文献等については引用文献等一覧参照)

○請求項1-5／引用文献1

・引用文献1：特に公報の特許請求の範囲参照。

・請求項4, 5に係る発明で付加された構成は、当業者が適宜なし得る設計事項に過ぎない。

3. この出願は、明細書及び図面の記載が下記の点で、特許法第36条第4項及び第6項第2号に規定する要件を満たしていない。

記

・請求項6に係る発明は、いかなるミラーがいかなる能動態に接しているのか不明であり、また、いかなる変位力を与えるのか不明であるために、発明の内容が不明瞭である。

・請求項7, 8, 21に係る発明のうち一部についてしか実施の方法が記載されておらず、請求項7, 8に係る発明のうち他の部分について発明の実施をすることができない。

請求項7, 8, 21を引用する請求項についても同様である。

・請求項9に係る発明は、ミラーが1層の薄膜のみからなる発明を含んでいるが、請求項8の構成の全てをミラー1層のみで実現する方法が不明である。

・請求項19に記載の構成は意味不明である。

引用文献等一覧

1. 特開昭64-017015号公報

先行技術文献調査結果の記録

・調査した分野 I P C第7版 G 0 2 B 2 6 / 0 8

DB名

・先行技術文献

この先行技術文献調査結果の記録は、拒絶理由を構成するものではない。

(1) 明細書、特許請求の範囲を補正した場合は、補正により記載を変更した個所に下線を引くこと(特許法施行規則様式第13備考6)。

(2) 補正は、この出願の出願当初の明細書、特許請求の範囲又は図面に記載した事項のほか、出願当初の明細書、特許請求の範囲又は図面に記載した事項から

自明な事項の範囲内で行わなければならない。補正の際には、意見書で、各補正事項について補正が適法なものである理由を、根拠となる出願当初の明細書等の記載箇所を明確に示したうえで主張されたい。（意見書の記載形式は、無効審判における訂正請求書の記載形式を参考にされたい。）

なおこの拒絶理由通知に不明な点がある場合、または、この案件について面接を希望する場合は、特許審査第1部光制御（光デバイス） 榎本英吾（かしもと えいご）（特許庁 内線 3 2 9 5）までご連絡下さい。

⑫ 公開特許公報(A)

昭64-17015

⑮ Int. Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑬ 公開 昭和64年(1989)1月20日

G 02 B 26/08
6/42E-6952-2H
8507-2H

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

⑭ 発明の名称 レーザー光線分光装置

⑯ 特 願 昭62-172494

⑰ 出 願 昭62(1987)7月10日

⑱ 発 明 者 河 部 正 広島県広島市東区戸坂大上4丁目9番15号201

⑲ 出 願 人 佐 伯 光 弘 広島県広島市西区大芝2丁目10-33

明 細 書

1. 発明の名称 レーザー光分光装置

2. 特許請求の範囲

レーザー光投射装置とアクチュエータの回転軸に取付た反射体と、反射体の回転軸から等距離の位置に取付た2ヶ以上の光ファイバー入力光学系からなり、反射体を位置決め制御することにより、レーザー光の分光を行うレーザー光分光装置。

3. 発明の詳細な説明

(A) 産業上の利用分野

この発明はレーザー光線を分光し、光ファイバーを用いて多数の位置に導く装置に関するものである。

(B) 従来の技術

レーザー光を用いて照明を行い画像処理を行うにあたり、しばしば1ヶ所以上の位置から一定時間隔で切換えながら、レーザー光を投射する必要がある。このような場合、従来は多数のレーザー光源を用ゑし、このレーザー光源を順次ON-

OFFすることにより目的を果していた。しかしこのような方法では装置が大がかりになりコスト高となっていた。

(C) 発明が解決しようとする問題点

本発明は前記の目的に対し、一つのレーザー光源を分光して順次使用することにより、装置をコンパクト化して低価格化するものである。

(D) 問題を解決するための手段

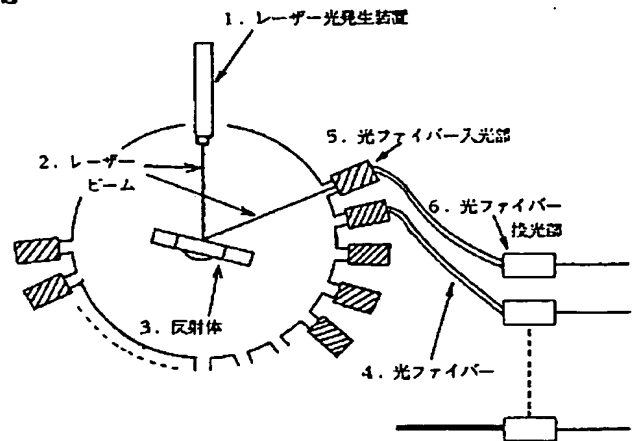
本発明の構成を図に沿って説明する。

1. は光線の出口にコリメーターレンズ系を取付け、小径のレーザービームを投射するレーザー光発生装置である。このレーザー光発生装置から投射されたレーザービームは、位置決め制御の可能な回転アクチュエータの軸に取付られた反射体3により反射し、光ファイバーへレーザー光を導入する光ファイバー入光部5へ入射する。反射体3の回転軸から等距離の位置に多数(光ファイバー入光部を)配置し、反射体を順次位置決め制御することにより必要な位置に配置された光ファイバー等光部からレーザービームが順次投射される。

4. 画面の簡単な説明
1. はレーザー光発生装置
 2. はレーザービーム
 3. は反射体
 4. は光ファイバー入光部
 5. は光ファイバー投光部

図 面

第1図



特許出願人 佐伯 光弘

手続補正書(方式)

昭和62年9月28日

特許庁長官 殿

1. 事件の表示 昭和62年特許願第172494号
2. 発明の名称 レーザー光線分光装置
3. 補正をする者

事件との関係 特許出願人

住所 広島市西区大芝2丁目10-33

氏名 佐伯 光弘

4. 補正命令の日付 昭和62年9月22日
5. 補正の対象 願書の発明の名称及び、明細書の図面の簡単な説明の欄
6. 補正の内容 別紙の通り

4. 画面の簡単な説明

第1図は本発明の構成を示す図

- 1はレーザー光発生装置
- 2はレーザービーム
- 3は反射体
- 4は光ファイバー入光部
- 5は光ファイバー投光部